

# 木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る 第2回ワークショップ協議結果について



平成27年8月27日

第3回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会



# 第2回ワークショップ協議結果について

## ①ワークショップの目的

現在、まちづくりや事業で活躍されているみなさまから、市や地域の課題及びこれまでと今後のまちづくりに対する意見・意向を伺い、市の実情に合った戦略にすることを目的とする。

あわせて、参加者間の交流により、新たな取組み（ビジネスモデル）の提案を目的とする。

## ②主な意見取りまとめ

分 野	意 見
婚 活	<ul style="list-style-type: none"><li>「婚活」の名称イメージが良くないので変えたい。</li><li>サバイバルゲーム、断食パーティ、山登りなどの婚活事業の開催 →阪神淡路大震災の年に子どもの数が多くなった。命の危険が迫ると子どもの数が増える傾向にある。</li><li>【花嫁行例の復活】</li><li>ブライダル業界と連携し、前撮りの撮影場所の提供。 例：茶畑、桜、あじさい、恭仁宮跡、恭仁小など</li><li>抽選で募集し、成果をPRすれば人が増える。</li></ul>
生きがい	<ul style="list-style-type: none"><li>高齢者のパートナー探し、お茶友達グループづくり。 →高齢者を孤立させないことが大切。</li></ul>
農業	<ul style="list-style-type: none"><li>農家仲間に声をかければ色々な野菜が揃う。パンやラスクを作られている方と連携し、ねぎラスクやお茶ラスクの開発・販売ができる。また、子育てサークルとも連携することで、活性化が図ることができる。</li><li>農産物をブランド化して、流通を図ることも良いが、地産地消が大切と考えている。適正価格で地元に流通したい。</li><li>食育の取組み。 →嫌いな食べ物を皆で楽しく食べれば、食べられるようになるのでは。</li><li>休耕地の活用。 →若い人に来ていただく。</li><li>観光と農産物のコラボによる活性化。 →実行するための人材育成が大切。</li></ul>

# 第2回ワークショップ協議結果について

分 野	意 見
観光・PR	<ul style="list-style-type: none"><li>○「道の駅」を福祉施設として運営できないか。 →就労支援、雇用支援となる。</li><li>○当尾地域の活性化 →空き家カフェで、特産物などを販売できる。吊り店の再生。漬物づくりなど。</li><li>○子育て世代を対象とした観光イベントの開催。 →当尾のゴボウ、梅谷のダイコン、鹿背山の柿などを販売する横で、食べられるようになる取組み（マルシェ）をしたい。また、子育てサロンも併設する。</li><li>○木津川で遊べるようなイベント・整備。</li><li>○テーマを選定。【№1よりオンライン】 →歴史的文化遺産は真似が出来ない。 恭仁京：風水が良い（天皇がいたところ）。星が綺麗。</li><li>○淨瑠璃寺、岩船寺など個々ではなく、面で繋いでPR。 →パワースポット的なものをアピール。歴史物語などの制作。 神秘的なもの（○○から見て△△は日の出の方向…など）</li></ul>
子育て	<ul style="list-style-type: none"><li>○子どもにとって良い環境である。 →田舎を感じることができる。奈良市と連携も可能。通勤・通学に便利。</li><li>○住み続けられるまちである。</li><li>○田舎過ぎず、都会過ぎずちょうど良いことをアピール。</li><li>○子どもたちに、歴史・文化を教え、まちの愛着を深める。</li></ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>○体験学習などでリーダーを育成する。</li></ul>
創業支援	<ul style="list-style-type: none"><li>○クラウドファンディング、金融機関による支援。</li></ul>
空き家	<ul style="list-style-type: none"><li>○人と人との絆 →空き家に魅力を感じて来られる年配の方も多い。</li><li>○若い世代と年配の世代との交流、新旧住民の交流が大切。 →アスピアの前に人が集まっている。 宅地開発された場所であるため、住みやすい。集落が形成されている地域には、後から入りづらい点もある。</li></ul>